



## 放射線障害の防止に関する法令 概説と要点 (改訂9版)

日本アイソトープ協会 編



本書は、放射線障害の防止に関する法令を体系的に網羅した解説書である。放射線の取扱いに関係するすべての人が知っておくべき、正確な法令の知識を得ることを目的に書かれている。「概説と要点」という書名からは一般の受験参考書のサブ

タイトルを連想するが、実際、冒頭の概説では放射線取扱主任者試験が紹介されており、これから資格取得を目指す方々に是非お勧めしたい参考書でもある。

これまでにも法令改正に対応して改訂されてきたが、今回の改訂9版には、平成24年4月に施行された、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」と、その関係法令の改正内容が反映されている。その主な内容は、(1)放射性汚染物の確認制度の導入、(2)放射化物の規制対象への追加、(3)廃止措置の強化、(4)譲渡譲受制限の合理化、罰則の強化、である。これより前、平成21年10月に行われた施行規則の改正による記帳、管理状況報告書、廃止措置、放射線源登録制度に関する変更内容も今回反映されている。

本書の目次の構成は従来から、手続・施設基準・行為基準等の法規制体系に沿って構成されているが、今回もその基本は変わっていない。しかし、法令の改正点を反映して、本文には広い範囲で多くの

追加、変更が行われている。特に、放射性汚染物や放射化物という規制対象と用語の変更に関係する部分、廃止措置計画が関係する使用の廃止等の項、報告徴収の項には多くの書き換えや解説の追加が行われている。その他、法令の改正に直接関係しない部分にも、全般的に項目の再整理、解説内容の見直しが行われており、前版までに馴染んできた読者には、改めて全体を通して読まれることをお勧めしたい。

一般に法令が分かりにくいとされる理由は、規制の実体が法律、政令、省令、告示等に分けられ、多くの例外や但し書きを伴って書かれているためであろう。本書は法令全体を規制の体系別にまとめ、本文の条項番号を示しながら、内容を要約して解説するというスタイルで書かれている。また、随所に補足説明や参考欄を配し、分かりにくい箇所には更に詳しい解説が付け加えられており、法令をより深く理解するには非常に便利なツールといえる。A5版のコンパクトなサイズは、辞書感覚で使うにも便利である。しかし、度重なる法令改正に対応して版が重ねられるごとに、本書の収載内容も次第に増加しており、キーワードを頼りに調べたい箇所を素早く見付け出すには、慣れと少しの予備知識が必要になってきたように感じる。ページ数の制約もあろうが、巻末に索引があればもっと使いやすいと思うことがしばしばである。

最近では、一般の人々にも放射線安全に対する関心が高まっていることは周知のとおりであり、放射線の安全に関する法令は、今までのように、放射線を取り扱う関係者だけが知っておけば良いものではなくなくなったかもしれない。すべての人に「法」の精神が理解され、放射線が正しく恐れられるようになるために、障害防止法令による規制の実際を客観的に、正確に、そして分かりやすく解説している本書は、重要な1冊となるのではないだろうか。是非一読を願いたい書である。

(渡辺雄三 順天堂大学大学院 放射線管理室)

(ISBN978-4-89073-225-8, A5判 177頁, 本体価格2,000円, 日本アイソトープ協会, ☎03-5395-8082, 2012年)